

子どもの健康づくり連携事業〈専門医の派遣〉実践例

小学校⑦

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ 「防煙教室」
- 2 対 象 6年児童、教職員
- 3 専門医 大竹 修一 医師
(山形市立病院済生館)
- 4 実施月 12 月
- 5 内 容
たばこの身体への影響
有害性について



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*たばこの依存性や身体的影響についての知識を得ることによって、未成年時の喫煙防止やその後も受動喫煙を含めて、健康を守るための行動につながる内容だった。

②保健教育における校内連携について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*保健だよりの発行や校内に子どもの受動喫煙防止条例のポスターを掲示。教職員全体に講義内容を周知し、喫煙に対する問題意識を高くもてるように啓発活動を行った。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*本校児童が喫煙に関する事案等に該当した場合、専門医への相談ができるように体制構築ができた。

〔受講者の感想など〕

○防煙教室を通して、たばこの恐さに気付くことができ、よかった。将来COPDやニコチン依存症になるような有害物質が入っていることを初めて知った。

○この学習を通して、たばこについて、正しい知識を得ることができた。今日の話を家族にも話をして、たばこの怖さについて、教えてあげようと思った。



〔教科やその他の指導との関連性〕

○教育活動全体を通じた生活指導